

3 現状と課題

本区でこれまで実施してきた、こどもクラブ、放課後子供教室、児童館等の放課後対策の実績を分析し、需要や傾向を見定め、今後の総合的な事業実施に向けて課題を明確にします。

保育が必要な児童に対する事業

こどもクラブ

(1) 利用実績

児童数の増加や、保護者の就労形態・就労時間の多様化等に伴い、こどもクラブ需要（こどもクラブ入会者数＋石浜小B登録・B(長期)登録者数＋待機児童数）は増加傾向にあり、今後さらなる増加が見込まれます。

■表4 こどもクラブ需要の推移と今後の予測

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
児童(予想)数(※1)	6,439人	6,482人	6,672人	6,816人	6,888人	7,005人
需要(予想)数(※2)	1,123人	1,183人	1,217人	1,260人	1,292人	1,316人

※1 平成27～29年度は5月1日現在の児童数（特別支援学級（固定学級）含む）

平成30～32年度は予測数

※2 平成30年度以降の入会者数は予測児童数に27～29年度の平均入会率をかけて算出

障害児等配慮を要する児童については、区内こどもクラブ全体で毎年45～50名程度の児童を受け入れています。障害児は6年生まで継続して利用することが多いため、引き続き小学校5・6年生を対象とした高学年障害児保育対応こどもクラブの整備が必要です。

■表5 こどもクラブ入会児童数に対する受け入れ障害児児童数の推移

学年	平成27年度							平成28年度							平成29年度						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童入会数	351	360	279	68	9	4	1,071	365	327	277	95	20	6	1,090	399	318	241	90	22	7	1,077
障害児児童数	8	13	9	9	6	4	49	8	8	9	8	5	6	44	8	11	8	7	7	4	45
障害児の率	2.3%	3.6%	3.2%	13.2%	66.7%	100%	4.6%	2.2%	2.4%	3.2%	8.4%	25.0%	100%	4.0%	2.0%	3.5%	3.3%	7.8%	31.8%	57.1%	4.2%

※3か年とも申請があった障害児児童の全員を受け入れています

(2) 定員と入会者数

こどもクラブの定員と入会者数の推移を分析すると、毎年入会者数は定員を下回っています。これは、児童の通う小学校内または近隣のこどもクラブ以外

には、児童が歩いて通える距離にないなどの理由により、空きがあっても入会を希望しないことが多いからです。

■表6 こどもクラブの定員と入会者数の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
定員	1,175人	1,195人	1,165人
入会者数(※1)	1,071人	1,090人	1,077人
空き	104人	105人	88人
待機児童数	52人	40人	56人

※各年度4月1日現在

【 こどもクラブの課題 】

- ・こどもクラブ需要は増加傾向にあり、今後さらなる増加が見込まれる。
- ・高学年障害児保育対応こどもクラブは一定量の需要があるが、区内9クラブのみで実施しており、引き続き整備が求められる。
- ・児童の通う小学校内または近隣のこどもクラブ以外には入会を希望しないことが多いため、需要に応じた整備が必要である。

石浜小（B登録）

（1）利用実績

石浜小学校では、石浜小B登録・B（長期）登録の実施により、平成28年度は53人、平成29年度は84人の児童が登録し、平成27年度に区内小学校で最多であった11名のこどもクラブの待機児童が解消されました。

石浜小学校の児童で放課後に保育が必要な児童数を分析すると、4割程度が長期休業中のみ利用の石浜小B（長期）登録となっています。石浜小B（長期）登録の児童は全て石浜小A登録に登録をしており、長期休業中以外は平日の石浜小A登録を利用しています。そのため、長期休業中の居場所を確保することで、こどもクラブの需要減少が見込まれます。

■表7 石浜小学校におけるこどもクラブの需要の推移

年度		27年度	28年度	29年度
こどもクラブの需要（放課後保育が必要な児童）		76人	86人	91人
内訳	こどもクラブ在籍児童（橋場・玉姫）	65人	33人	7人
	石浜小B登録児童	—	17人	44人
	〃 B（長期）登録児童	—	36人	40人
	こどもクラブ待機児童	11人	0人	0人

(2) 他校への展開

石浜小学校においては、安全・安心な保育環境を確保するため、こどもクラブと同等の面積基準及び職員配置で事業を実施しており、最大80人定員のこどもクラブを実施可能なスペースが校舎内に確保されています。

他校で実施するためには、各校のこどもクラブ需要数を全て受け入れることが可能なスペースと従事職員の確保が必要です。本区では、今後さらなる児童数や学級数の増加が見込まれており、他校での実施については、教室等のスペースや学級編制の状況により実施困難となる可能性があります。

【 石浜小B登録・B（長期）登録の課題 】

- ・定員を設定せず、こどもクラブと同水準で他校へ展開するには、各校で最大需要数に対応できるスペースや職員数の確保が必要であり、実施困難な可能性がある。

全ての児童に対する事業・施設

放課後子供教室

(1) 利用実績

①放課後子供教室（千束小学校放課後子ども教室・石浜小A登録）

千束小学校では在籍児童の87.4%となる188人が登録しており、石浜小学校では実施初年度にもかかわらず、在籍児童の62.8%となる147人が登録をし、放課後子供教室を利用しています。

平成28年度における石浜小学校の1日あたりの利用者数は47人で、千束小学校の開設時である平成20年度の利用者数50人と、ほぼ同数でした。

■表8 平成28年度 放課後子供教室の利用実績

	在籍数※	登録数※	登録率※	開設日数	延べ利用者数	1日あたりの利用者数
千束小学校	215人	188人	87.4%	139日	13,640人	98人
石浜小学校 A登録	234人	147人	62.8%	191日	9,001人	47人

※平成28年5月1日現在

■表9 千束小学校における1日あたりの利用人数年度推移

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
利用人数	50人	65人	71人	95人	74人	86人	91人	93人	98人

平成28年度に千束小学校・石浜小学校放課後子供教室に登録している利用者（児童・保護者）に対するアンケートを実施した結果、非常に満足・満足と答えた利用者は、千束小学校では88.7%、石浜小学校では過半数を超えています。

満足の理由としては、「放課後に学校内でそのまま過ごせる安心感がある」、「プログラムが多彩である」等の意見が挙がっていました。両校で使用できる場所や実施内容に違いはありますが、それぞれの特徴を活かした事業実施により、共に高い満足度となっています。

■表10 放課後子供教室に登録している利用者の満足度調査（平成28年度）

満足度	非常に満足	満足	普通	不満	非常に不満
千束小学校	59.0%	29.7%	10.6%	0.7%	0%
石浜小学校	22.8%	31.6%	30.2%	13.4%	2.0%

②生活指導子ども会

放課後子供教室の一部として区内全19校の小學校で、実施校の全児童を対象に、年間84回程度（週2回程度）小學校PTA連合会で遊び場、スポーツの場を提供しており、延べ参加人数は例年4～5万人となっています。

本事業は、昭和49年から実施しており、児童の居場所づくりとして定着しています。放課後子供教室の実施にあたっては、児童や活動の情報共有を行いながら、生活指導子ども会を併用して実施することで、より効率的な事業となります。

■表11 生活指導子ども会の利用実績

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
延べ回数	1,413回	1,330回	1,435回
延べ参加人数	46,912人	44,931人	49,062人
1回あたりの平均参加人数	33人	34人	34人

(2) 放課後の過ごし方について

平成26年3月に実施した「台東区次世代育成支援に関するニーズ調査報告書（以下「次世代ニーズ調査」という。）」において、小学生の保護者に「お子さんの平日の日常的な過ごし方の希望」に関する調査を実施した結果、14～16時では「学校にいる」ことを望む保護者が58.7%と最も多く、小學校内での安全・安心な居場所づくりが望まれています。

また、次代を担う人材育成の観点からも、全ての児童が放課後等における多様な体験・活動を行う居場所を提供することが重要です。

(3) こどもクラブへの影響

こどもクラブ在籍者のうち、17時以降利用していない児童数は、全こどもクラブ在籍児童1,077名中307名で、割合は28.5%です。これらの児童については、放課後子供教室（石浜小A登録）を長期休業中も実施することで、現在のこどもクラブ利用時間と同程度の居場所が確保できるため、こどもクラブの需要減少が見込まれます。

■表12 小学校ごとのこどもクラブ在籍者数と17時まで利用の児童数の割合

小学校名	上野	平成	根岸	東泉	忍岡	谷中	金曾木	黒門	大正	浅草	台東育英
在籍児童数	41	41	34	59	46	66	118	9	83	45	62
17時まで利用の児童数	7	7	4	18	14	15	38	2	17	20	24
17時まで利用の児童割合	17.1%	17.1%	11.8%	30.5%	30.4%	22.7%	32.2%	22.2%	20.5%	44.4%	38.7%
小学校名	蔵前	東浅草	富士	松葉	千束	石浜	田原	金竜	その他	計	
在籍児童数	103	46	81	50	45	7	52	78	11	1,077	
17時まで利用の児童数	21	21	27	18	9	2	11	30	2	307	
17時まで利用の児童割合	20.4%	45.7%	33.3%	36.0%	20.0%	28.6%	21.2%	38.5%	18.2%	28.5%	

こどもクラブに在籍している児童の保護者に、長期休業中も含めた放課後子供教室を実施した場合の移行希望をアンケート調査しました。その結果、38.6%の方が、放課後子供教室への移行希望がありました。

■表13 こどもクラブから放課後子供教室への移行希望

学年	放課後子供教室に移行したい		どちらともいえない		こどもクラブのままがよい		合計 人数	全回答数に対する割合
	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
1年生	89	30.2%	13	4.4%	193	65.4%	295	40.2%
2年生	94	43.0%	11	4.5%	116	52.5%	221	30.2%
3年生	78	49.4%	5	3.1%	75	47.5%	160	21.8%
4年生	18	51.4%	1	2.9%	15	45.7%	35	4.8%
5年生	0	0%	1	7.7%	11	92.3%	13	1.8%
6年生	1	25.0%	0	0.0%	3	75.0%	4	0.5%
未回答	1	20.0%	0	0.0%	4	80.0%	5	0.7%
合計	281	38.6%	31	4.1%	417	57.3%	733	100%

※実施期間：平成29年9月22日～10月2日 配布数：1,056枚 回答数：733枚 回収率：69.4%

また、アンケート調査の中で「こどもクラブと放課後子供教室の両方を利用したい」とのご意見がありました。現在、千束小学校内のこどもクラブ及び石浜小B登録に登録している児童は保育実施中に放課後子供教室の利用が可能ですが、校外のこどもクラブに登録している児童については、放課後子供教室の利用は可能ですが、こどもクラブは欠席となります。

【 放課後子供教室（千束小学校放課後子ども教室・石浜小A登録）の課題 】

- ・学校により使用できるスペースが異なるため、状況に合わせた事業内容を検討することが必要である。
- ・長期休業中は実施していないため、こどもクラブの需要減少につながりにくい。
- ・校外のこどもクラブに登録している児童が、利用しやすい仕組みが必要である。

【 生活指導子ども会の課題 】

- ・実施回数が週1～2回程度であり、小学校により曜日や回数が異なり、恒常的な居場所の提供ができない。

児童館

(1) 利用実績

児童館利用者数は増加傾向にあり、幼児・小学生・中高生の各年齢層で増加傾向にあります。利用者数の割合は半数以上が小学生となっています。

■表14 児童館の利用者数推移

年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		
利用者数合計	195,042人		211,073人		224,339人		285,755人		284,936人		
内訳	幼児	25,812人	13.2%	29,324人	13.9%	31,048人	13.8%	44,324人	15.5%	44,681人	15.7%
	小学生	115,584人	59.3%	123,911人	58.7%	128,346人	57.2%	163,963人	57.4%	158,587人	55.7%
	中高生	7,294人	3.7%	7,291人	3.5%	10,235人	4.6%	10,349人	3.6%	12,276人	4.3%
	大人(保護者)	46,352人	23.8%	50,547人	23.9%	54,710人	24.4%	67,119人	23.5%	69,392人	24.3%
備考							谷中児童館の新設による増加		玉姫児童館の仮移転による減少		

ランドセル来館については、平成28年度に全8館で拡大実施し、延べ登録者数は前年度と比べ27.8倍となる2,060人、延べ年間利用者数は前年比4.4倍となる4,263人となっており、延べ登録者数・延べ年間利用者数ともに増加しています。

■表15 ランドセル来館の登録者数と利用者数

平成27年度			平成28年度		
実施館数	延べ登録者数	延べ年間利用者数	実施館数	延べ登録者数	延べ年間利用者数
4館	80人	980人	8館	2,060人 (前年比25.8倍)	4,263人 (前年比4.4倍)

(2) 中高生の需要

「次世代ニーズ調査」によると、今後児童館を利用したいと考えている(いつも利用したい、イベントがあるときに利用したい)中学生は15.3%で、

高校生は10.2%となっており、平成29年4月1日現在の人口から算出すると、中高生826名の利用希望が見込まれます。

■表16 中高生の児童館利用希望

	利用希望率	人口	利用希望見込
中学生（12～14歳）	15.3%	3,211人	491人
高校生（15～17歳）	10.2%	3,277人	334人
合計	13.6%	6,488人	826人

【 児童館の課題 】

- ・ランドセル来館には定員（各館1日15名）があり、受入れには制限がある。
- ・中高生等の利用も伸びており、居場所のひとつとしてサービスの提供が求められる。